

「子どもの成長と環境」

挑戦問題

『こどもたちを自分たちの力で笑顔にしよう!』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命
協力・協働 感謝・貢献

期待される生徒の変容

・思春期の生徒たちは自我の芽生えから大人に反抗的な態度をとることがよくあるが、幼児期の事を思い出しながら、幼児期の生活や成長の特徴を学習することで、自分一人で、自分の力だけで成長したわけではないことを再認識し、自分を支えてくれている人々への感謝の気持ちを持ち、自分が子どもを支える立場で何ができるかを考え、行動できるようになる。

平成29年度の取組より

Before【生徒の発言シートより】

〈家族は自分にとってどんな存在か〉

- ・「親はいちいちうるさい。」
- ・「親が面倒くさいから早く一人暮らししたい。」
- ・「お母さんは悩み事の相談に乗ってくれる。」
- ・「お兄ちゃんに小さい頃はいろいろ教えてもらった。」
- ・「妹が面倒くさい。」
- ・「(年の離れた)妹はかわいい。」



保育体験学習の様子

After【振り返りシートより】

- ・私はどちらかと言えば小さい子があまり好きではなく、自分から関わったりしたことはありませんでした。笑顔で話しかけてくれたり、喜んでくれる純粋な姿を見て、保育士になるのも良いなと思えました。
- ・子どもたちがかわいくて、私も元気をいっぱいもらいました。
- ・両親や祖父母、たくさんの人に愛情こめて育ててもらったことがわかりました。感謝しながら生活したいです。
- ・赤ちゃんを育てるのは自分のことより優先することが多くて大変だとわかりました。ボクの親にも感謝をしないといけないと思いました。
- ・周囲から手助けすることで、お母さんも少し余裕ができると思うので、町で見かけたら積極的に手伝ってあげたい。



平成30年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

保育の分野は視聴覚教材を使いながら、「自分の小さい頃の事を振り返らせ」たり、「家族に小さかった頃の事を聞いてくる」などの活動を通して、幼児への理解を深める事が多い。でも実際は思春期の親子が幼児期の頃を振り返って会話できる場面は少ない。今回、キャリアスタートでお世話になった保育所に保育体験に行ったり、育児休業中の先生や子育て中の保護者にゲストティーチャーとして話をしてもらったり、乳幼児とのふれあいの時間を作る等の体験的な活動を取り入れることで、自分と家族の関係を改めて考えることができた。体験的な活動はできるだけ工夫しながら取り入れたいと考える。

